

平成27年1月28日(木)、29日(金)
EAワークショップ
「評価力を上げるための目的・計画の作り方 & 指標の選び方」
アンケート集計結果
回答者30名／参加者31名(回答率97%)

1. 本ワークショップの情報をどこで入手されましたか？(複数選択可)

- a. 大学評価・学位授与機構
- b. 大学評価コンソーシアム
- c. 京都大学高等教育研究開発推進センター運営の「asagao ML」
- d. 大学行政管理学会
- e. 知人を通じて
- f. 上記以外

a	b	c	d	e	f	無回答
14	6	9	1	2	4	0
47%	20%	30%	3%	7%	13%	0%

【f.上記以外の入手先】

- 1 上司から
- 2 本学からファシリテータとして参加している職員からの紹介
- 3 学内周知
- 4 畠田先生のメーリングリスト

2. 本ワークショップの時間は適当でしたか？

(長かった～丁度良かった～短かった)

1	2	3	無回答
0	27	3	0
0%	90%	10%	0%

【選択理由】

- 1 多少、短いように感じましたが、実際に大学に持ち帰ることを考えると、丁度だったと思います。
- 2 講義、演習の流れ、(自分達が手を動かすのは演習なので配分時間のことも含む)が自然な感じで、疲れを感じず各日ゴールまで行けた。
- 3 グループ討論が中心だったので、これまで参加したワークショップと比較しても同じくらいの長さだったから。
- 4 長丁場ではありましたが、作業量に鑑みれば、丁度良かったと思います。
- 5 テーマ的にいくらでも掘り下げられるものでしたが長すぎず、短すぎない程度に設定していただいたと思う。
- 6 各テーマごとに、実践する上での課題を感じるとともに、解決策を、相談する時間もありました。
- 7 短いようで長く、長いようで短かった。
- 8 STEP1～3までを全て取り組むことで、学びを深められた。
- 9 課題の提示から評価までのプロセスが明確で、作業そのものに意義があった。
- 10 ワーク時間の区切り方はとても良かったと思う(集中できる時間構成だった)。ステップ3が時間切れになってしまった。
- 11 合宿でも良いかもしれないと思いました。
- 12 1日半を2日にして内容を充実して、完成版としても良いように思いました。
- 13 本欄に書くのが適当か分からないが、後の発表について、手順・ポイント・時間等の発表の仕方を事前に指示していただけると、時間通りに進行できたのではないかと感じた。
- 14 なんとなく不完全燃焼感が残る。系図や指標が完成していないので、未完成のまま終了するのは気持ち悪い。

3. 講師の講義はいかがでしたか？

(とてもわかりやすかった～ふつう～とてもわかりにくかった)

1	2	3	4	5	無回答
18	10	1	0	0	1
60%	33%	3%	0%	0%	3%

4. 演習の班編成はいかがでしたか？

(良かった～どちらともいえない～悪かった)

1	2	3	4	5	無回答
17	9	2	0	1	1
57%	30%	7%	0%	3%	3%

【選択理由】

- 現在、評価業務を担当していて、同じ国立大学同志であったため。
- 所属している部署や担当が似通っていたので、議論がしやすかった。また、大学のカラーが出た意見もあつたりと違った視点の考え方も聞くことができ勉強になった。
- 執行部目線になりましたが、良かったと思います。
同じ属性の人の方が基本ラインを理解できるように思います。
- 国大法人・私大など、類似系統になっていたのも、背景が似ており、議論に入りやすく、深めやすかった。
- 同じ世代、職員（私立が若干多め）であり、共有しやすく、視点もずれにくいので、進行しやすかった（ファシリテータが素晴らしかった）。
- グループメンバーを意図的に割り振っていただいていたので、グループ内では同じ問題意識で、またグループ間では個性が出て、討論の幅が広がって良かったと思う。
- 同じ立場の職員が会すると検討内容の方針が揃うので良いと思います。
- 似た属性でまとめられていた点。視点が似通って、意見に多様性が出にくいというデメリットがあるが、効率的に議論するにはこの方が良い。
- 企画係の人ばかりだったため、経営側の視点に偏った感があった。一方で、その方が話は進むような気がする。
- 実務者チームとして、現実解を考えることができました（細かい部分では社会的手振きがあったかも...）。
- 大学の地域貢献というテーマは私にとって余り関わっていないテーマだったので、具体的な経験が少なく、積極的に意見を出せない面もありましたが、他の先生方はよく経験されていて、刺激を受けました。
- 課題の中心となる視点によって、全体の見方が変わることを実感した。教員と意見が分かれてしまうことも多いため、こちらにはメリットになっていても教員側からは負担になることが分かった。
- こまめに発表があるので、途中段階で都度、議論をまとめる必要があるが、後半に向かうに従い余裕をもってCPに到ることができた。ファシリテータ様々、係長級様々です（自分は主任）。←理由を書いておらず、結果から記述しておりすみません。
所々頭の思考が止まっていたのは反省です。
- 大変有意義でした。欲を言えば、全員研究者だったので、職員の方や企業の方等、「異質な他者」の視点があると良かったかなと思います。
- 控え目な方が多く、意見交換が活発に出来なかった。
自分は発言したい事がたくさんあるのに、自分ばかり話しては意味がないと遠慮した。違う班が良かった。同じ年齢でグループ分けをしていると田中先生は言っていたが、それが原因でこうなったのでは？（自分はおそらく「若いグループ」だったのだと思います。）

5. 演習の司会の議論の進め方はいかがでしたか？

(良かった～どちらともいえない～悪かった)

1	2	3	4	5	無回答
20	8	1	0	0	1
67%	27%	3%	0%	0%	3%

【選択理由】

- 議論をスムーズに進行していただくとともに、プラスの知識も教えていただけて興味深かったです。
- 方向性がまとまりづらくなったときに、しっかりとリードしてくれたので、進行が全体的にスムーズに行った。
- 大変だったと思いますが、ありがとうございます。
- 適度にヒントを与えてくれたから。
- 担当された司会者の方の補足説明が実践的で非常に参考になりました。
- 基本と応用（ファシリテータの事前約束と場に応じた臨機応変なご対応）をうまく組み合わせを進めていただいたと思います。
- ファシリテータの方に適宜アドバイスいただきありがとうございます。
- ある意味で任せていただいたので、主体性を発揮できたかなと思います。詰まった時にヘルプをいただけたのも良かったです。
- グループメンバーの意向を汲んでくださって導いていただきました。ありがとうございました。
- 時間・目標を明確に提示してくださった。
- ポイントポイントでエッセンスを教えていただきながら進めていただき、[経験(体験)]→[解決策(考え方)]と言うタイムリーな学びができました。
- 各テーブルにタイムリーに訪れて方向、時間配分の点で助言された。
ファシリテータは溢れんばかりの事例を提供いただき議論が適度に地についたものになりました。
- 田中先生の講評はそれぞれの班の特徴をピックアップされ、聞き手として非常に分かりやすかった。

6. 演習を通じて、目的・計画の作り方及び指標の選び方に対する理解が深まりましたか？

(そう思う～どちらともいえない～そう思わない)

1	2	3	4	5	無回答
17	10	3	0	0	0
57%	33%	10%	0%	0%	0%

7. 総合的に判断して、ワークショップはいかがでしたか？

(満足～どちらともいえない～不満足)

1	2	3	4	5	無回答
23	6	0	1	0	0
77%	20%	0%	3%	0%	0%

【選択理由】

- 1 また機会があれば参加したいです。
- 2 抽象化することで円滑な議論につなげることになると思います。皆さんその程良い具体と抽象のバランスがあった。
- 3 盛り沢山な内容でしたが、課題から計画を考える、計画策定時に指標を考えるというのはとても勉強になりました。
- 4 評価について、ここまで理論的に学んだことがなかったので、かなり理解が深まったし、一方で課題も多くあり奥が深いと感じました。
- 5 手法の効果を理解することができたと思います。
- 6 学内で課題を検討する際に取り入れられそうと感じた。
ステップが理論的でわかりやすい。
- 7 難しさや唯一の方法ではないということもありつつも、計画—検証のセオリーの部分について、理解を深め、自己のトレーニングの機会とすることができて良かったです。
- 8 具体的なケースに基づく実践的なものだったから。
- 9 課題を目標で反転させる、原因結果でツリー図にする等新しい知見、技術を得ることができました。
- 10 2日間と言う長さは丁度良く、やりきった感を得ている。
- 11 刺激が多いワークショップでした。
- 12 全体像を知ることができ、有意義でした。
ポストイットを使って、意見をすぐ反映できたものを目にして良かったです。
- 13 スキルアップにつながったこととともに、新たなネットワークができたのも上記の理由です。
- 14 近年多くの評価が求められ、何のための評価かを考える機会もないことに自分なりに疑問を感じていたことが受講の理由だったが、ワークショップ全体を通じて改めて評価の大切さを実感する事ができたため。
- 15 課題の設定が難しかった(学内だけでなく学外にも関わる問題だったので)。
- 16 目的・計画の作り方及び指標の選び方を自学に戻って展開できるかという自信がない。
- 17 作業方法の勉強にはなったが、班の議論の中で得たものはあまりなかった。自分と属性が違う人、経験が長い人、いろんな部署を回ってキャリアが長い人の意見や発想を勉強できなくてとても残念です。

8. 今後のワークショップについてご意見等

【今後取り扱って欲しい事例・内容等】

- 1 アセスメントに関する指標の立て方の演習。
- 2 事例を取り上げて効果的な指標の定め方の紹介。
- 3 今回は課題策定～指標まででしたが、指標策定～評価～改善の流れについても取り扱っていただけるとありがたく存じます。
- 4 教員評価。
研究評価。
- 5 研究開発評価に関する議論ができる場があると有益かと個人的に思います。
- 6 認証評価、(法人評価)等の具体的な大学評価。
- 7 IR(室)関係。
- 8 IRのあり方(活用方法)について
- 9 グローバル化(TEXTの最初にありました)。本当に必要なのか、全国の大学で取り組むのか、国全体で見た費用対効果。自信(信念)を持って進めないといいところがあるので。議論を経て深めてみたい。他大学の文化に触れてみたい。
- 10 留学生を増やすという事例が良いと思います。
- 11 教員を巻き込むプロジェクト方法(大規模大学でトップダウンがなかなかうまくいかないため、大学執行部の政策を全教員に巻き込んでいく方策を練りたい)。
- 12 支障のない限り実際の事例が提示されても良いのではないかと思います。実際に何ができるかの議論になっていくと良いと思う(名前は出さないが...)。

【その他ご意見・ご要望等】

- 1 議論しやすかった。
初めて、セミナーに参加したこともあり、考え方について勉強になった。
- 2 課題発見の上で、因果関係をツリー図にすることで、クリティカルな原因を突き止めるのに非常に優れたツールと感じました。
是非本学でも展開していきたいと思います。ありがとうございました。
- 3 大変有意義でした。
- 4 自己点検のcheckには大変有用な手法と思います。ぜひ活用して行きたいと思います。
- 5 答えが一つにならないぐらい、複雑なテーマであったことが面白かったです。
楽しく勉強できました。ありがとうございました。
- 6 ステップ3にもう少し時間をかけたかった。
“そもそも論にしない”ということの大切さが分かった。
視点を明確にすることの大切さを知った。
逆にあまり似たような立場で揃えなくても良かったのかなと思う。
新しい事に取り組むときに、漠然とやるのではなく見せ方を考えることの意義を学んだように思う。
- 7 フォローアップ等の研修があれば嬉しいです。
- 8 方法論のレクチャーを受けたうえで、その適用としてのワークショップの位置づけという点ではありますが、演習課題を事前に読んでいるともう少し深い議論ができるようにも思いました。
貴重な機会のご設定をいただき、ありがとうございました。
- 9 始めからグループが決められているので、グループ内での自己紹介時間が20～30分あると背景属性が見えるため、役割分担ができて、グループワークに臨みやすくなる気がした。
- 10 最後の講義にありました、指標のチェックリストについて...現在の業務上学習成果の測定に関する指標設定について悩んでいます。チェックリストの「測定可能性」で引っかかってしまい、他の基準についての話に進まない状況があります。昨今話題の学習成果把握(測定手法etc)とつなげたお話も伺いたかったです。
- 11 ステップを踏む中で、発表中の意見にもあったが横につなげなくなる。このステップ1～4が今後進化していくのかどのようになるのか気になる。
- 12 班で作成した指標の表(評価設問票)のファイルがいただきたいと思います。
- 13 5～6人で話し合うのに、テーブル3つは広すぎて、発信者の声が小さく聞きにくいところがありました。
最後に発表した指標のファイルがほしいです。(2班)
- 14 作業時間が多く、議論を十分にできなかった面があった。
大変、有意義な研修でした。
- 15 実際に下学で活用する事を考えると第3期中期目標・計画を考えると、地域連携の項目は一行or数行だと思う。それについて、これだけの指標を設定すると実際の大学では、指標管理や数値の収集のみに多大な労力を割くことになる。必要最低限のものにする必要があると思った。
「EAワークショップ」という冠が分かりにくい。メインタイトルにより参加しようかどうか判断されてしまう。